

大会名：第15回NACカップU-10
日程：平成27年7月4日（土）～5日（日）
会場：小野町町営多目的グラウンド
参加：E4クラス10名
帯同：小松コーチ（1日目のみ）
対戦相手：

VS富田東SSS 1：2●

VS行健SSS 1：3●

結果：予選3位

報告：小松

いよいよこの世代も公式戦と言う訳ではありませんが冠が付いた大会へ参加出来る年齢となりました。

7月の4日土曜日と5日日曜日、2日間に渡る今年15回を数える記念大会です。

この大会は小野町の化粧品会社が地域のスポーツ、サッカー振興のためスポンサーになり小野町スポーツ少年団の保護者が主体となって毎年開催される素晴らしい大会です。

ご挨拶もしっかり町の町長、教育長、社長とかなり町をあげての一大イベントとして捉えています。

さてそんな記念大会での参加となりました我々FCアーレU-10ですが私小松の仕事もあり1日目私2日目渡邊コーチと言うことで大会に参加させて頂きました。

初日はブロックで戦いブロック順位決定、2日目は順位別トーナメントです。

試合は8人制の前後半15分5分15分のゲームと言う戦いになります。

初日私達はDブロック

対富田東 負け

対行健 負け

と言う2試合を戦いました。

それではここからはゲーム取り立ててチームの話をして行きたいと思います。

まずゲーム（試験、テスト）には2つの考え方がありひとつはここまで一生懸命頑張ったのだからこそ腕試し的テスト、もちろんそこは努力や頑張りの発表の場となります。

もう片方はタイミング的この時期と言うあくまで計り的なテストだと思います。

何方にしても努力や頑張りが付いてまわり人を成長させるひとつのアクセントになっていきます。

それでは今回のアーレ U-10 は？ どの様な取り組み方それがどんなアクセントになったでしょう？

少なくとも今回の試合試験をアクセントとして捉えた場合妥当な取り組みは後者のタイミング的な計りごとでした。

その後の頑張りや立ち振る舞い、せっかくのチームとの関わりすべてがサッカーの喜びや勝負の楽しさを知ることなく過ぎて行ってしまったように思います。保護者の方々の目にはどの様に伝わりましたか？

ある部分はコーチなのでそこをあのなでしこ佐々木監督のようなマネジメントで十分に戦えるだろうと言う方が居るかもしれません。

ある選手は集合に遅刻して目をみて謝ることも出来ずに開会式へ出席しました。

ある選手は試合中仲間が戦っているなか「コーチ、おしっこ、トイレ行っていい？」もちろん行ってもらいました。

ある選手は試合中出番から外れれば土遊び、ピッチの脇のベンチです。

しまいには小枝まで持ち出していました。

ランチでさえ選手でかたまって食べてね。たくさん試合のお話をしてから食べてとお願いしても友と友の数名ほど大きな輪にはなれませんでした。

もちろん試合も後者故に私の方で管理した戦いをやりたかったのですが話を聞いて判断すると言う個の成長もままなりません。

結果すべてが惨敗です。

もしかしたらサッカーには勝てたかもしれません。

点数も近差で負けており総崩れのこれはダメだはありませんでした。

逆に最後の最後で一矢報いたゲームもありサッカーには勝てたかもしれませんが勝負には負けました。

それが限界であるように…。

何度も何度もゴール前まで得意のドリブルで迫りシュートまでもう一歩がありながら

こんなこともありました。

2日目が終わりに帰り自宅、ある選手達2人はそこでトイレへ行くと言って行き出しました。待てど暮らせど帰って来ません。

もう2名の保護者と心配するコーチだけになりやっとこさ帰って来ました。

2人は近くの遊具を見た途端遊びたくなりそちらに流れてしまったようです。

サッカーで勝っているのに勝負に負けたその先には人間性の向上しかありません。

人として向上しなければ勝負の神も微笑まないし、それこそ社会に出た時が心配です。

もちろん今の集団生活学校も心配です。

向上には私達コーチが週2日間の1回1時間2時間の練習をしたところでよほどアンテナが立ってない限り無理でしょう。

保護者の方々の頑張りを伝えてください。

どんな気持ちで迎えどんな気持ちで関わりどんな気持ちで頑張ってもらいたいのか。

頭からお叱りとして伝えるのではなく寄り添うように。

戦う、人生を勝ち取るのは選手です。

何でも先回りでするのではなくやらせて判断を養ってあげてください。

頑張りや一生懸命が身体で表現出来るようになって初めて勝負の神、人生の神が振り向いてくれます。

また逆にある守りの選手と真ん中の真ん中をやった選手は本当にブレることなく自分を表現してくれました

。

特に守りの選手は何度も私の判断でアタックを踏みとどまらせ守りに専念させそれぞれ相手カウンターを弾いてくれました。

その安定感は時間が増すごとに増して素晴らしい学びとなっていました。

そして真ん中の選手は努力して掴んだリフティング回数を武器に何度も味方ゴール前から相手ゴール前まで食い込み一矢報いたプレーをしてくれました。そのひたむきさは日頃の努力の回数を物語るのに十分なプレーでした。

努力や頑張りは裏切りません。

また今やらなければいつやるのでしょうか？

誰かのセリフ

少なくともどんな努力もすべて自分に還元されます。

少なくとも私が見ています。

すべて見えています。

誰が見ていなくても私は見てあげられる努力と一緒にしていきたいと思います。

そんな新たな日に向う大会参加となりました。

微力ではありますが保護者の方々、本人、私達コーチ手を携えてこれからも素晴らしい選手育成をしていけたらと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

また大会を年間を通し設定して頂いた小野町スポーツ少年団の関係各位に心から感謝申し上げます。

最後に渡邊コーチ

急な変更ありがとうございました。

選手達の得点能力爆発はさすがでした。

順位リーグ優勝おめでとうございます。

ありがとうございました。

小松 大輔

